

室谷賢治郎名誉教授略歴

明治 33 年 (1900年)

2月25日 北海道札幌区北2条東1丁目1番地に生まれた。父外次郎・母さよの三男。

明治 39 年 (1906年)

4月1日 公立札幌創成尋常小学校へ入学。

明治 45 年 (1912年)

3月31日 公立札幌中央創成尋常高等小学校尋常科を卒業。

4月1日 北海道庁立札幌第二中学校へ入学。

大正 6 年 (1917年)

3月31日 北海道庁立札幌第二中学校を卒業。

4月1日 東京高等商業学校へ入学。

大正 9 年 (1920年)

3月31日 東京高等商業学校本科第2学年修了。

4月1日 東京商科大学へ入学。

大正 12 年 (1923年)

3月31日 東京商科大学を卒業。

4月10日 小樽市緑町佐野喜平二女喜代子と官幣大社札幌神社において、岡本善藏夫妻の媒酌により結婚式挙行。

4月18日 小樽高等商業学校講師を嘱託され、経済学および商業学を担当した。

大正 13 年 (1924年)

11月10日 小樽高等商業学校教授に任ぜられた。

大正 14 年 (1925年)

8月17日 長女左喜子出生。

昭和 4 年 (1929年)

1月30日 商業学および文明史研究のため、満2箇年間ドイツ国在留を命ぜられた。

3月10日 留学のため横浜港出発。

昭和 5 年 (1930年)

2月10日 イタリアおよびアメリカを在留国に追加された。

昭和 6 年 (1931年)

5月20日 帰朝。

昭和 7 年 (1932年)

10月11日 長男満智男出生。

昭和 11 年 (1936年)

2月4日 二女節子出生。

昭和 16 年 (1941年)

3月11日 勲5等に叙せられ、瑞宝章を授けられた。

昭和 18 年 (1943年)

12月18日 現職のまま北海道商工経済会理事(調査部長)に応嘱することを文部大臣から許可された(終戦まで)。

昭和 19 年 (1944年)

4月1日 小樽高等商業学校が小樽経済専門学校と改称されたことにともない、同校教授に任ぜられた。

12月15日 従4位に叙せられた。

昭和 21 年 (1946年)

6月10日 小樽経済専門学校教務部長を命ぜられた(昭和24年7月8日まで)。

昭和 24 年 (1949年)

6月30日 小樽商科大学教授に補せられ、兼ねて小樽経済専門学校教授に補せられた。〔昭和24年5月31日に小樽経済専門学校は小樽商科大学に包括され、同年7月7日に小樽商科大学は開学した。〕

昭和 26 年 (1951年)

3月31日 小樽商科大学に併置の小樽経済専門学校の課程が廃止されたので、小樽経済専門学校教授の兼職を解除された。

昭和 28 年 (1953年)

5月1日 小樽商科大学附属図書館長に併任された。

昭和 38 年 (1963年)

3月16日 小樽商科大学の定年規定に従って、小樽商科大学短期大学部教授に配置換えとなり、小樽商科大学附属図書館長の併任を解除された。

昭和 39 年 (1964年)

10月31日 小樽商科大学短期大学部を退職した。

11月1日 小樽商科大学名誉教授の称号を授与された。

〃 札幌短期大学学長に選出されて就任した。

(以上、昭和40年12月31日現在)

室谷賢治郎名誉教授著作目録

Ⅰ. 著書および訳書

- 「商工経営教科書」同文館，昭和9年12月，147頁，A5判。
「経営経済学概論」同文館，昭和10年4月，266頁，A5判。
「経営金融論」（上田貞次郎監修「経営学全集」第7巻），東洋出版社，昭和10年8月，370頁，A5判。
「商学提要」同文館，昭和12年10月，347頁，A5判。
「商業史大綱」叢文閣，昭和13年10月，386頁，A5判。
「改訂・商工経営教科書」同文館，昭和14年12月，139頁，A5判。
「近世物価史要」（W. T. レイトン，G. クロウザー共著），巖松堂書店，昭和15年5月，369頁，A5判。〔W. T. Layton & G. Crowther, *An Introduction to the Study of Prices*. 3rd ed. (London, 1938). の翻訳〕
「転換期の商工経営」同文館，昭和17年6月，162頁，B6判。
「経済史新講」乾，坤2冊，巖松堂書店，乾は昭和17年7月刊；坤は昭和18年11月刊，通巻335頁，A5判。

Ⅱ. 論 文

(1) 商学・経営学に関するもの

- 「商工経営研究の発達とその方法」，『商学討究』第1巻上冊（大正15年7月）。
「企業及企業者の概念に就て」，『商学討究』第1巻下冊（大正15年12月）。
「インフレーションと企業の評価に就て」，日本経営学会年報『経営学論集』第8輯〈経営とインフレーション〉（同文館，昭和9年5月）。
「経営経済学の体系に就て——フレーゲ・アルトホッフの説に触れて——」，日本経営学会年報『経営学論集』第10輯〈カルテル及経営学の重要問題〉（同文館，昭和11年5月）。
「企業の拡張とその財政」，『商学討究』第11巻合冊特輯，小樽高等商業学校創立二十五周年記念論文集（昭和11年12月）。
「統計に示す独逸の有限責任会社」，『商学討究』第13巻下冊（昭和13年12月）。
「中小事業者の光と闇」，『商業組合』第7巻，第8号（昭和16年8月）。
「企業の整理とその財務」，『商学討究』第18巻特輯，手塚寿郎教授追悼記念論集〈総力戦経済の研究〉（昭和19年3月）。
「公社論——公社の課題と現実——」，増地庸治郎（編）『企業形態の研究』（日本評論

社，昭和19年6月）所収。

「企業の再編成と国家管理」，『戦争と経営及経理』滝谷善一博士還暦記念論文集，第2巻（千倉書房，昭和20年2月）所収。

「経営経済学徒としてのL. エアハルト」，『商学討究』復刊第15巻，第1号（昭和39年6月）。

(2) 経済史に関するもの

「唯物史観の相対性」，『商学討究』第3巻下冊（昭和3年12月）。

「ビュヒアーの経済発展段階学説と古代希臘経済史」，『商学討究』第6巻中冊，小樽高等商業学校創立二十周年記念論文集（昭和6年10月）。

「マルサスとその社会経済史的背景」，『商学討究』第9巻中・下合冊特輯，〈百年忌記念マルサス研究〉（昭和9年12月）。

「古代経済史における商工経営の問題」，『商学討究』第14巻下冊（昭和14年12月）。

「戦時下物価対策私見」，『実業之日本』第43巻，第13号（昭和15年7月）。

「産業統制発展史論」，『商学討究』第15巻，紀元二千六百年記念論集〈国家と経済〉（昭和15年12月）。

「明治・大正・昭和の物価」，『実業之日本』第44巻，第16号（昭和16年8月15日）。

「国防経済の歴史的考察」，『商学討究』第16巻特輯，小樽高等商業学校創立三十周年記念論文集〈戦争と経済〉（昭和16年12月）。

「近世西班牙国防経済史概説」，『商学討究』第17巻下冊（昭和17年12月）。

「近世英国産業統制史論」，『経済の歴史と理論』上田貞次郎博士記念論文集，第2巻（科学主義工業社，昭和18年1月）所収。

「北海道工業構成史論序説」，『北方経済研究』第5号（昭和20年3月）。

Ⅲ． 書評および紹介

「所謂資本主義経済学に就て——河上肇博士の近著『資本主義経済学の史的発展』を評す」『小樽新聞』（大正12年12月21日～23日）。

「武田英一教授の新著『商学通論』を讀みて」『北海タイムス』（大正14年4月22日～24日）。

「英国産業革命に関する二近著」，『企業と社会』第17号（昭和2年8月）。〔J. L. Hammond & B. Hammond, *The Rise of Modern Industry*. 2nd ed. (London, 1926) および J. H. Clapham, *An Economic History: The Early Railway Age, 1820-1850* (Cambridge, 1926) の紹介〕

「国民性と経済——ヘルマン・レヴィにおける一研究紹介——（一），（二）」，『商学討究』第3巻上冊（昭和3年6月）；同下冊（昭和3年12月）。〔Hermann Levy, *Volkscharakter und Wirtschaft: Ein wirtschaftsphilosophisches Essay* (Leipzig und Berlin, 1926) の紹介〕

- 「メレロウィッチの経営経済学」, 『経営経済研究』第5冊(昭和5年9月)。
- 「伯林における経営経済学諸教授とその業績とについて——ライトナー, ヒルシュ, プリオン——」, 『経営経済研究』第9冊特輯号(昭和6年5月)。
- 「宮田喜代蔵著『経営原理』」, 『商学討究』第6巻下冊(昭和7年2月)。
- 「宮下孝吉著(独文)『日本貨幣史研究』」, 『商学討究』第6巻下冊(昭和7年2月)。
- 「平井泰太郎撰著『産業合理化図録』及『経営学文献解説』」, 『商学討究』第7巻上冊(昭和7年6月)。
- 「高瀬荘太郎著『企業財政論』」, 『商学討究』第8巻上冊(昭和8年6月)。
- 「鈴木保良氏著『商工経営綱要』」, 『経営経済研究』第14冊(昭和8年9月)。
- 「太田哲三・岩田巖共著『インフレーション会計』」, 『経営経済研究』第16冊(昭和9年5月)。
- 「西野嘉一郎著『事業財政分析観察法』」, 『経営経済研究』第17冊(昭和9年9月)。
- 「帝国主義研究の好著——C. R. フェイの近業——」, 『社会経済史学』第4巻, 第10号(昭和10年1月)。〔C. R. Fay, *Imperial Economy: And its Place in the Formation of Economic Doctrine, 1600-1932* (Oxford, 1934) の紹介〕
- 「『経営経済学概論』に就いて」, 『経営経済研究』第19冊(昭和10年11月)。〔自著についての紹介〕
- 「西野嘉一郎著『近代株式会社』」, 『会計』第38巻第2号(昭和11年2月)。
- 「増地庸治郎博士の『株式会社』」, 『商学討究』第12巻上冊(昭和12年6月)。
- 「酒井正三郎氏の『経営技術学と経営経済学』」, 『商学討究』第12巻下冊(昭和12年12月)。
- 「松井辰之助氏の『商業経営論』」, 『商学討究』第12巻下冊(昭和12年12月)。
- 「平井泰太郎教授著『販売組織の更改と経営機構』」, 『商学討究』第13巻上冊(昭和13年6月)。
- 「増地庸治郎博士の『賃銀論』」, 『商学討究』第14巻上冊(昭和14年6月)。
- 「フェイ『協同組合論』続巻」, 『一橋論叢』第7巻, 第3号(昭和16年3月)。
- 「大泉行雄教授の『商業本質論』」, 『商学討究』第17巻上冊(昭和17年8月)。
- 「増地博士と遺稿『工業経営論』」, 小樽経済専門学校『社会経済研究』第5号(昭和22年6月)。

Ⅳ. 学内新聞, 同窓会誌への寄稿

- 「企業者と経済騎士道(→, ⇐)」, 『緑丘』新聞第2号(大正14年7月1日); 第3号(同年10月6日)。〔A. C. Pigou, *Essays in Applied Economics* (London, 1923). の紹介〕
- 「冬と追憶(和歌7首)」, 『緑丘』第13号(大正15年12月15日)。
- 「鮮満北支土産——黎元洪との会見——(→, ⇐)」, 『緑丘』新聞第20号(昭和2年10月18日); 第21号(同年12月19日)。

「アシュレー卿の一遺著に就て」, 『緑丘』新聞第 27 号 (昭和 3 年 10 月 6 日)。〔W. Ashley, *The Bread of our Forefathers: An Inquiry in Economic History* (Oxford, 1928) の紹介〕

「満州事変と国際聯盟」, 『緑丘』新聞第 58 号 (昭和 6 年 11 月 30 日)。

「ヴァーグナー劇の憶ひ出——五十年祭に際して——」, 『緑丘』新聞第 70 号 (昭和 8 年 2 月 23 日)。

「欧米各大学巡礼記——伯林大学の巻——」, 『緑丘』新聞第 73 号 (昭和 8 年 5 月 31 日)。

「石狩行 (短歌 14 首)」, 『緑丘』新聞第 75 号 (昭和 8 年 12 月 28 日)。

「石狩行 (短歌 11 首)」, 『緑丘』新聞第 76 号 (昭和 9 年 1 月 25 日)。

「重要産業統制の回顧と展望」, 『小樽高商緑丘新聞』第 93 号 (昭和 11 年 5 月 15 日)。

「戦時経済の理論」, 『小樽高商緑丘新聞』第 105 号 (昭和 12 年 11 月 25 日)。

「欧州大戦後における英国の失業(→, ⇐)」, 『小樽高商緑丘新聞』第 116 号 (昭和 13 年 10 月 25 日); 第 117 号 (同年 11 月 25 日)。

「ラグビー部の生立ちを回顧して」, 『小樽高商ラグビー部後援会会報』第 1 号 (昭和 15 年 3 月 5 日)。

「ラグビーと報国」, 『小樽高商ラグビー部後援会会報』第 2 号 (昭和 16 年 3 月 30 日)。

「伝統といふこと」, 『小樽高商ラグビー部後援会会報』第 3 号 (昭和 17 年 4 月 5 日)。

「経済史学研究の暁星——坂西博士の業績を顧て——」, 『緑丘』新聞第 160 号 (昭和 17 年 6 月 25 日)。

「北海道における農工調整の一斑」, 『緑丘』新聞第 189 号 (昭和 19 年 11 月 25 日)。

「学徒勤労働員作業に参加して」, 同上。

「よい古い時代」, 『小樽商大緑丘新聞』第 278 号 (昭和 31 年 7 月 7 日)。

「緑丘学園の創立記念行事と募金の回顧」, 『小樽商大緑丘会報』第 2 号 (昭和 33 年 11 月)。

「くろがねの冴え」, 小樽商科大学同窓会誌『緑丘』全国版第 35 号〈浜林生之助先生追悼特集号〉(昭和 39 年 1 月)。

「徹夜して読む浜林特集号」, 『緑丘』全国版第 36 号 (昭和 39 年 3 月)。

「小林多喜二特集号に寄せる」, 『緑丘』全国版第 42 号〈小林多喜二特集〉(昭和 40 年 3 月)。

「ハイゼ先生の墓を訪ねて」, 一橋大学同窓会誌『如水会々報』第 426 号 (昭和 40 年 10 月)。

V. そ の 他

室谷賢治郎 (編) 『河添雄二遺薫集』河添家自費出版, 昭和 16 年 12 月, 313 頁, A 5 判。〔戦没したゼミナール出身学生の遺稿集〕

(昭和 40 年 10 月現在, 進藤寛・田島候兼 調べ)